

## 1 小単元名 「米づくりのさかんな庄内平野」

## 2 小単元の目標

○我が国の米の生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たして国民生活を支えていること、米の生産は自然環境と深いかかわりをもって営まれていることや、米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解し、米の生産の発展について考えることができる。

○米の生産の様子から学習問題を自ら考え、地図や統計などの資料を活用するなどして調べたことをまとめるとともに、米の生産の様子と自然環境や国民生活とを関連付けて表現することができる。

## 3 観点別評価規準

観 点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	我が国の米の生産の様子に関心をもち、庄内平野を事例として意欲的に調べるとともに、国民生活を支える米の生産の発展を具体的に考えようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	我が国の米の生産の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、米の生産が自然環境を生かしたり克服したりして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを考え、適切に表現している。
観察・資料活用の 技能	庄内平野を事例として、我が国の米の生産の様子について、地図、統計など資料を活用するなどして必要な情報を集め、国民生活や自然環境とのかかわり、米の生産の工夫や努力、生産地と消費地とを結ぶ運輸などの働きを読み取っている。
社会的事象について の知識・理解	米の生産は自然環境と深いかかわりをもって営まれていること、米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働きを理解している。

## 4 小単元について

## (1) 学習指導要領との関連

本小単元は、単元「わたしたちの生活と食料生産」を3つの小単元に分けたうちの1つであり、学習指導要領では、第5学年の内容(2)「我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果た

していることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする」を受けて扱うものである。この小單元では、「我が国の農業や水産業」の中でも米の生産を扱い、国土の自然環境を生かして、生産が営まれていること、国民生活にとって非常に密接なかかわりをもっていることに気付かせるように指導していく。また、米の生産において生産に従事している人々の様々な工夫や努力、そして生産地から消費地へと結ぶ流通や運輸などの働きに注目することをねらいとしている。

## (2) 教材について

本小單元では、日本人の主食である米の生産について取り扱う。米の生産は国民の食生活を支える重要な産業である。現在、日本において、国民の米の消費量の推移（国民1人1年当たり）は平成24年度では、56.3 kgとなっている。昭和40年度の111.7 kgに比べてみると、麺類やパン食などの様々な食生活の変化により、減少傾向になっている。しかし、いまだに米は日本人にとって食生活を支える重要な農作物であることに変わりはない。また平成25年度の収穫量は8,603,000tとなっており、他の農作物の収穫量より多い。本小單元で取り扱う庄内平野がある山形県は、作付面積68,300ha 収穫量415,300tと日本有数の稲作地帯であるといえる。庄内地方の特色として、庄内平野は南北100km・東西約40kmの広さがあり、その多くは平坦な土地である。日本海に面した西側以外の3方を、鳥海山や出羽山脈などの山々に囲まれており、最上川という大きな川の河口に開けた扇状地である。こうした立地の良さや自然環境の良さを生かした米作りを行っている庄内平野を教材として取り上げ、そこで米作りに従事している人々、またそれに関連のある人々の工夫や努力を扱う。

小單元を通じて子どもたちが、普段家庭や給食で何気なく食べている米が、どういった生産方法で作られているのか、そして生産に従事している人々は消費者のニーズを受けて、どんな努力や工夫をしているのかに焦点を当てていく。

また人々の努力によって作られた米がどういった流通過程を経て我々消費者に届けられているのか。そこにはどういった人々が関わり、努力をしているのかについて扱う。

## (3) 児童の実態（男子18名 女子16名 計34名）

### ① 社会の学習は好きですか

好き 23人	嫌い 10人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おもしろい(5人)</li> <li>・調べることが楽しい(5人)</li> <li>・世界や日本のことがわかるから(5人)</li> <li>・歴史が好きだから(5人)</li> <li>・新聞やニュースの意味が分かるから(1人)</li> <li>・地図帳を見るのがたのしい(1人)</li> <li>・自分の住んでいる県についていろいろ知れるから(1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の名前や人物名が細かいから(4人)</li> <li>・難しいから(4人)</li> <li>・国の名前が覚えられないから(2人)</li> </ul>

② お米は好きですか

好き 32人	嫌い 1人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしいから(22人)</li> <li>・おかずにとても合うから(5人)</li> <li>・お米を使ったいろいろな料理があるから(2人)</li> <li>・水の量や塩などで味に変化が出るから(2人)</li> <li>・歯ごたえがいいから(1人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味がないから</li> </ul>

③ 知っているお米の品種はなんですか(複数回答可)

- コシヒカリ・・・28人   
もち米・・・4人   
ゆめピリカ・・・11人  
あきたこまち・・・20人   
赤米・・・1人   
ひとめぼれ・・・3人  
ななつぼし・・・2人

④ 家でよくお米をたべますか

- はい・・・29人  
いいえ・・・4人

⑤ 家で食べるお米は、どこで買っていますか。

- スーパー・・・19人   
親戚が作った米・・・4人   
通販・・・2人  
お米屋さん・・・1人   
わからない・・・3人

⑥ 家や給食で食べているお米がどこで作られたものか、またどのように届いているのか知っていますか。

- はい・・・2人 (千葉県産のコシヒカリ)  
いいえ・・・31人

⑦ お米について知っていることはなんですか

- 米は皮をむいても栄養がある。   
海外の米はパサパサしている。  
コシヒカリが有名である。   
お米は稲からできている。   
お米は田んぼで作られている。  
お米にはたくさんの品種がある。   
お米にはでんぷんが含まれている。   
お米は昔から食べられている。  
米を食べる人の割合が減ってきた。   
お米を作るには長い時間がかかる。  
米は日本の食文化にとって大切である。

本学級の児童は、社会科を好きと答える児童の割合が多かった。好きと答えた児童は、調べるのが楽しい、自分の住んでいる地域を知ることが楽しいなどと答えている。新しく知識を得ることに対して楽しさを感じる児童が多い。また本校の五年生は、総合的な学習の時間に実際に自分たち

で稲を育て、米作りの大切さや米に関する知識などを校内に発表する活動を行う。そうした実態から、米に対する関心は非常に高いといえる。それを踏まえ、米に関する実態を取った結果、米が好きと答えた児童がほとんどであった。理由としては「おいしい」「おかずに合う」などの回答が見られた。品種に関しては「コシヒカリ」を筆頭に「あきたこまち」など有名なブランドに回答が集中した。最近 TVCM で話題の「ゆめピリカ」など新しいブランド米にも注目していることがわかった。そして児童のほとんどが毎日米を食べる習慣があることもわかる。一方で米の生産方法や毎日自宅で食べている米、給食で出されている米がどこから、どのような過程で自分たちの家に届いているのかに関しては、ほとんどの児童がわからないと答えている。「はい」と答えた児童でも、自分の家で食べている米が千葉県産のコシヒカリだということはわかっているが、流通の仕組みはわからない。実態調査から児童にとって身近な農作物であるということがわかったが、一方で米作りや流通に対する知識は乏しい。米作りの仕組みや流通方法だけではなく、そこに関わる様々な人々の働きなどにもふれながら学習を進めていくようにする。

#### (4) 小単元で育てたい力

本学級の児童は、米に対して良い印象をもっており、米をよく食べている児童がほとんどである。また上記の実態から米の品種についてもよく知っている。しかし、米がどういったところでよく作られ、どのように流通しているのか、産地はどういったところなのかということに関しては、よくわかっていないのが現状である。

そこで本小単元では、私たちがおいしい米を食べられる過程（生産や流通）はどういった仕組みなのかを学習していく。その中でどういった人々がどんな工夫や努力をしているのか、生産地から家庭に届くまでにはどういった道りを経ているのかということに注目させる。学習を通して、農家や農家を支える人々、農協や流通にかかわる人々がいることで、おいしい米が食べられるということに気づかせていきたい。そうした学習から米の生産のすばらしさや米が日本の食料を支える重要な農作物であるということを実感し、率先して地域などに発信していく力を育てていきたい。

### 5 主題との関連

#### (1) 視点2 **追究意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発**

米作りについて学習を進めていき、そこに携わる人々の努力や工夫を調べる過程で、どういった人物が登場してきたのかを、米作り人物マップにまとめながら学習を進めていく。1時間の学習が終わるごとに、そのワークシートに米作りに関わる人物をまとめていく。学習が進んでいくにつれて人物マップが増えていき、私たちが米をおいしく食べられる背景には、多くの人物が関わっているため、という意識を毎回の学習の終わりに確認していく。また登場した人物同士の相互関係を書くようにすることで、おいしい米を作るには一つ一つの仕事が独立して行っているのではなく、それぞれの良さを生かし、協力していることの大切さを児童が考えられるようにしていく。そして学習のまとめの部分でその完成した人物図を完成させ、米作りに関わっている人々の工夫や努力を確認する。

## (2) 視点3 **主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫**

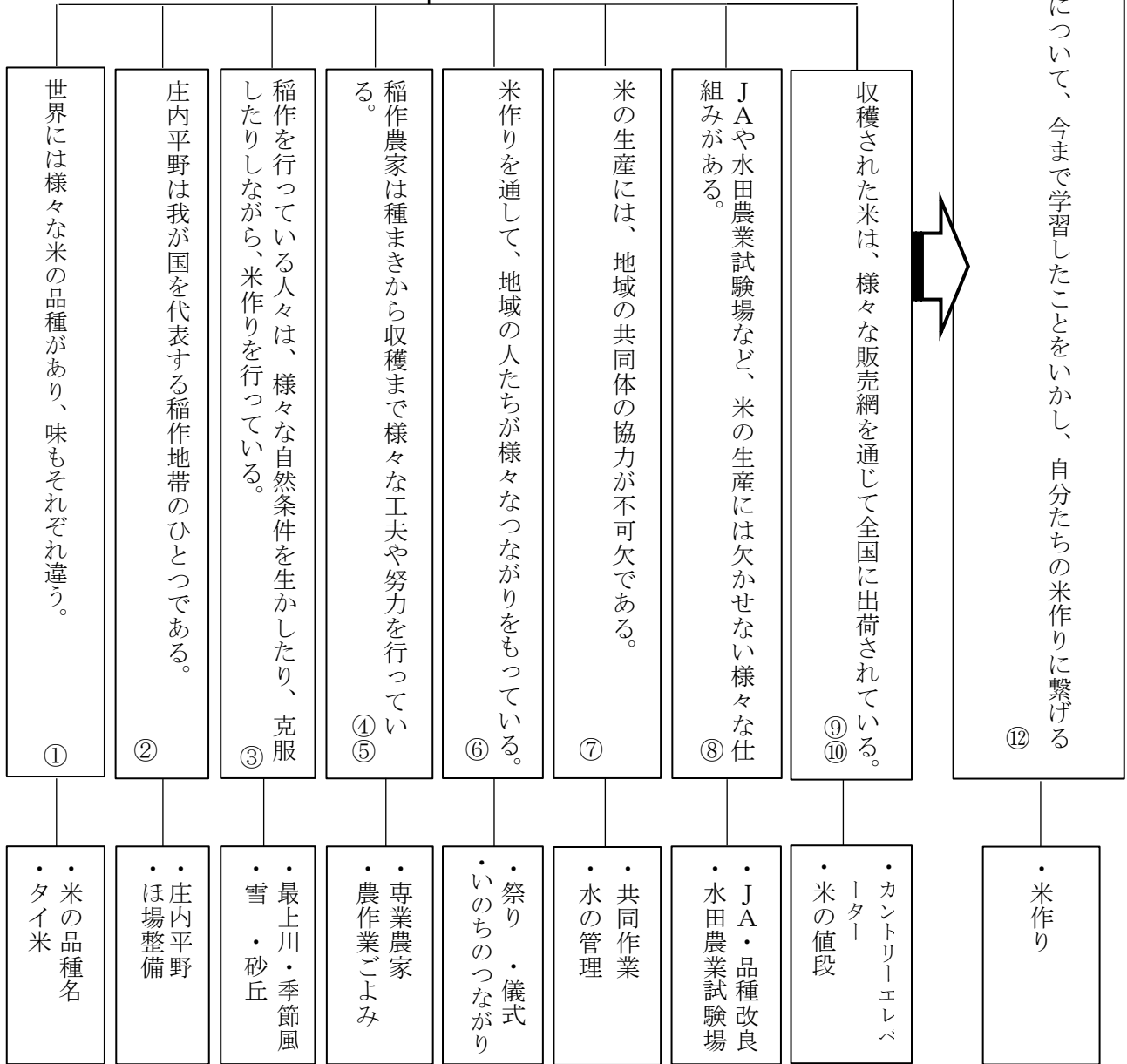
実際に米作りやそれに関わる仕事に従事している人が、「どのような目的で」「思いや願いをもって」「どんな工夫や努力をしているのか」学習を通して学んでいくことで、児童が社会的事象の意味を理解していくことに繋がると考える。生産に関わる人々や流通に関わる人々の中でも、特に流通に関わる人々の工夫や努力について、子どもたちが想像し難いと考え。しかし流通に関わる人々にも工夫や努力、思いがある。そこで、地域のお米屋さんをゲストティーチャーに招き、実際に米の販売、流通に携わっている方から、どういった工夫や努力、思いがあるのか生の声を聞くことで、自分と社会との関わりを考えるきっかけをもたせていきたい。また「いかす」の場面では、調べてきた米作りの方法やそこに携わってきた人々の工夫や努力をふまえ、総合の学習で行っている米作りの活動に結び付け、おいしい米を収穫するには、どのような工夫や活動をしていくべきなのかを考えさせたい。

## 6 知識の構造図

中心概念

米の生産は国民の主食を確保する上で重要な役割を果たし、国土の自然環境に合わせて、稲作とそれに関連する産業に携わる人々の工夫や努力によって営まれている。 ⑪

具体的知識



つかむ

調べる

いかす

目指す子どもの姿

米の生産には、生産者をはじめ様々な人々の工夫や努力があることを理解し、米作りのあり方を考え、自分たちの米作りに学んだことを活用しようとする姿。

7 指導計画（12時間扱い）

過程	時数	児童の主な学習活動	教師の指導と手立て・評価
つかむ	1	○実際に日本の米(山形県産:つや姫)とタイ米を食べ比べる。  ○日本の米とタイ米の味について、話し合う。	○自分たちで行う米作りで、日本のおいしい米を収穫するという意識を持たせる。  ◇身近な農作物である米に対して興味や関心をもつことができる。(関・意・態)
	2	○前時で実際に食べた日本の米について振り返る。また米はどのような場所が産地なのか調べ、そしてどのような人々が生産に携わっているのかを予想する。	◇日本の米作りに関心を持ち、学習問題について表現している。  (思・判・表)
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><b>学習問題</b></p> <p>わたしたちがおいしいお米を食べられるのは、どういった人々がどんな工夫や努力をしているからなのだろうか。</p> </div>			
調べる	3	○なぜ庄内平野では米作りが盛んなのかについて、写真や地図資料から調べる。また米作りと自然環境、人々の工夫や努力との関わりについて話し合う。	○米作りが盛んな背景として、米作りに適した自然条件を生かすだけでなく防砂林の植樹や耕地の整備などを行った人々の努力もあったことに目が向くようにする。  ◇資料を教科書の本文と関連付けて活用し、米作りに適した自然条件であることや米作りのために人々が努力したことを読み取っている。(技能)
	4 5	○実際の米作りの仕事内容や、生産過程を調べる。  ○調べて分かったことをもとに、米作りに従事している人々の工夫や努力について話し合う。	◇米作りを行っている農家の人々の仕事や生産過程、生産を高めるための工夫や作業の効率化について理解している。(知識・理解)
	6	○米作りに関わる行事や文化について調べる。	◇米作りに関わっている様々な人々の願いや思いが、「いのち」のつながりとして米の生産にいかされていることを考え表現している。  (思・判・表)

調べる	7	○庄内平野の農家の人々が様々な形で協力し合い、米作りに取り組んでいることを調べ話し合う。	◇庄内平野の農家の人々がより良い米作りのため、作業の効率化や技術の向上の工夫や努力をしていることについて理解している。(知・理)
	8	○農業協同組合(JA)や水田農業試験場などについて調べ、農家を支える仕組みについてまとめる。	◇資料から米作りを支えるJAや農業試験場の役割について読み取っている。(技能)
	9	○米の流通には、どういった仕組みがあり、どのような人々が関わっているのか調べる	◇資料を用いて生産地と消費地を結ぶ流通の仕組みや費用について理解している。(知・理)
	10 本時	○それぞれの流通に関わる人々の工夫や努力、思いなどを知り、人物マップに書き込む。	◇流通に関わる人々の工夫や努力、思いに気づき、人物マップに表している。(思・判・表)
まとめる	11	○今までの学習を振り返り、わたしたちがおいしい米を食べられるのは様々な人々の工夫や努力があったからであるということをもとめる。	◇これまでの学習をもとに、おいしい米が食べられるのは、様々な人々の工夫や努力があったからであるということを考え、表現している。(思・判・表)
	<p><b>まとめ</b></p> <p>わたしたちがおいしいお米を食べられるのは、米作りに携わる人々が様々な工夫や努力をし、お互いに協力しているからである。</p>		
いかす	12	○自分たちの米作りで、おいしい米をより多く収穫するには、何ができるか話し合う。	◇人々の工夫や努力によっておいしい米が作られ、届けられていることをいかし、自分たちの米作りの活動をもっと実りあるものにするにはどうしていくべきなのかを考えようとしている。(関・意・態)



8 本時の指導（9、10／12時間）

(1) 目標

- 米の流通には、様々な仕組みがあることを理解している。 (知・理)
- 流通に関わる人々の工夫や努力、思いについて人物マップにまとめている (思・判・表)

時配	学習内容 (○主な学習内容)	教師の指導と支援 (○指導・留意点□教材◇評価)
前時	1 米の値段を比べ、値段が違うことに気づく。	○どうしてお米の値段が違ってきているのか、流通という観点で考えさせる。
	2 お米がどのように自分たちのもとに届いているのか考える。 ・JA が関係しているかもしれない。 ・作った人がスーパーまで届けている。 ・今はネットでも買える。 ・生協で買っている	○自分の家では、どこで米を買っているのかを振り返らせ、その前の過程について想像させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p><b>学習問題</b> お米はどのような仕組みや思いで、届けられているのだろうか。</p> </div>	
	3 実際にどんな流通の仕組みがあるのか、資料をもとに調べる。	○実際に流通経路が書かれた資料を提示し、様々な流通の仕組みについて確認する。  ◇流通の仕組みについて、様々な仕組みがあることを理解している。 (知・理)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <p><b>まとめ：米が家庭に届くまでには、様々な仕組みがある。</b></p> </div>		
本時	1 学習問題を確認する。 ○米の流通にはどういった仕組みやルートがあったのかを確認する。	○前時からの学習問題と流通の仕組みについて確認する。
	2 JA や小売店の人々の工夫や努力はどんなものがあるのか予想する。 ・おいしいお米を届けたいという思い。 ・お米を安く仕入れる努力。	○流通の仕組みの中に含まれる、JA や小売店の人々がどういった工夫や努力、思いをもって米を届けているのかを予想を立てさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新鮮なお米を早く届ける工夫。</li> <li>・安全管理を行っている。</li> </ul> <p>3 実際の JA の工夫や努力について、インタビューシートをもとに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不作のときでも安定してお米を出荷できる。</li> <li>・出荷する前のお米の品質を安全に保つことができる。</li> <li>・カントリーエレベーターを使っておいしいお米を蓄えることができる。</li> </ul> <p>4 小売店の工夫や努力として、ゲストティーチャーの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おいしいお米を消費者に食べてもらうために、直接信頼のある米農家と契約し、お米を販売している。</li> <li>・直接農家からお米を買うメリットは、作っている人の顔が見えるので、安心してお店に出して売ることができる。</li> </ul> <p>5 自分たちの予想と照らし合わせ、人物マップにまとめ、書いた内容を共有する。</p> <p>6 学習のまとめを考え発表する。</p>	<p>□JA 庄内みどりの鈴木さんへのインタビューをまとめた資料を提示する。</p> <p>○資料をみて工夫や努力がわかる箇所に線を引くように声をかける。</p> <p>○お米屋さんを営んでいるゲストティーチャーに、実際に自分のお店で行っている米の仕入れの方法やその仕組みの良さはどんなところなのか。またどんな思いをもって販売しているのかを話していただく。</p> <p>○予想と調べたこと、聞いたことを照らし合わせて、人物マップに人々の工夫や努力、思いを書くように声をかける。</p> <p>◇米が家庭に届くまでにどんな工夫や努力があったのかを理解し人物マップにまとめることができる。 (思・判・表)</p>
<p>まとめ：様々な仕組みは安定して、よりおいしいお米を届けようとする人々の思いで、支えられている。</p>		